

大學は難治と傳へられて居る、此間の教授黜陟は、彼等此
難治の大學に指を染めた一著であるが、從來の經歷から推
して、何とか治りをつけ得る事と爲して御手際を拜見しや
う。

▲眞野文二

眞野は今度の行政改革の波動として、實業學務局長から
九州大學總長に遷された一人である。彼は舊幕府の士、早
く英國に留學してグラスゴー大學を修て來た工學博士であ
る。多年工科大學に教鞭を執つた人で、役人よりは寧ろ學
者として適當した人物らしい。故に實業學務局長といふ位

地を十四年の永年月間守つて居たが、是といつて失策はな
い代り又際立つた功績もなかつたらしい。若し彼が眞に英
國流の教育を受けて英國流の學者となつて、そして永く全
國の實業教育を司る彼の位地に居たとすれば、我教育上特
に實業教育上の缺點たる學理と實地との不調和、否箇々分
の狀態に在る弊害は何か改める位の事は出來相なもので
あつたが一向さる形跡も見えず此弊習は依然として我教育
界を通じて存在するらしい。永年其局に當りながら此事も
出來なかつた所を見ると矢張り役人よりは學者肌の人物た
るを證するものだらう。
役人としては左程の功績を現はし得なかつたにせよ、學

者としては一廉の學者たるは疑ひない。唯永い間、役人生活を送つて居たので、頭を荒ましたらうから、今では後れて居るかも知れないけれども、役人時代に殿様振つて居た生活状態を改めて、大に力めたならばマダ取返しがつかない事はあるまい。今度大學總長になつたのは、天分の性に適したる位地に復した譯であるから、シツクリ落ち附いて育英事業に従事せんことを希望する。聞けば彼は間々癩癩を起すことが有る相だが、是は小型にコクメイに堅まりたがる舊幕出身者に通有なる傾向で、美點であると同時に一の缺點でもあるのだから、大に矯めることが必要だらう特に年若い學生を相手にする彼の位地に適しないから改む

べしだ。彼と同時に廣島高等師範學校長から一躍して東北大學總長に擢んでられた

▲北條時敬

も、慥かに茲に收むべき功勞者の一人だらう、彼は加賀の産、夙に數學を専攻して理科大學を卒業後、理學士として直に教鞭を執つて各地に轉勤し石川縣專門學校、山口高等學校、金澤高等學校及び廣島高等師範學校に長として珍らしくも、三十年の間、實地教育の一方に従事して居た人である。行政方面に携はつて社會の表面に立つたことが無い爲めであらう。或部分を除く外には、殆んど名も知られ

ない位の有様であつたが、彼が在任した跡に就いて聞くに
行く所、居る所、良教師たり、良校長たる信望を博せな
かつた例はないらしい。社會の或部分では今度の任命を以
て、破格異例の拔擢の様に見て居るかも知れないけれども
實は彼の學者たり、教育家たる多年の努力に對する當然の
報酬だらう。

余輩は彼を以て學者といふも、何な程度の學者であるか
は固より知らない。然れども彼の様な純正の教育家に取り
ては、學力の深淺は決して彼を上下するの必要條件ではな
い。唯其感化の力が強くて、善く自己の率ゐる學生を性
格的周圍の中に引入れて彼等の性格の上に一種のエムツ

レッツヨンと與へる個性的感化が有れば充分である。嚴
正の意味に解釋したる教育家に第一の必要條件は此品性
の力で、普通にいふ『行り手』とか『手腕』とかいふことはこ
の次ぎその次ぎの事である。品性の方さへあれば其餘の資
格は殆んど無くても善い位のものである。文部省邊に居る
役人を教育家といふのは（教育上に貢献し得べきは勿論な
れど）嚴正の意味を言へば教育家と教育制度の上に働く役
人とを混同した次第である。

故に我教育界には所謂『行り手』『腕利き』と囑目せらるゝ
人物の殖えんよりは北條流の實地教育家の増さんことを希
望する然らなければ、理論に偏し、理窟にコダわる我教育現

時の缺點は何時迄も改まる時期はない。我輩は此意味で純正なる教育家たる彼が多年の効績を認め且つ其前途を祝福したいのである。

(一〇) 現代七奇人

▲中村 春吉

茶褐色を帯びた長髪は下手なルイ十四世の如く肩に波打たせ、鷹の如き眼は人を射る如くに鋭く、顔色は焼けたる赤銅の如くにして握太の大スタツキを廻振して時々東京市に出没する人こそ誰あらず貧民の親友自稱五賃將軍中村

長髪彼れ春吉である。

彼れ癡猛漢は人も知る先きに自轉車世界一周を企て遂に印度を横断し歐洲より米國を通過して歸京した一勇者である。快男子である。彼れは人に接するや蠻聲を張り上げ、『今や日本は年々に殖ゆる人口六十萬生存競争は日に月に旺んになつて来る富の不均と就職難、此貧に苦しむ我が同胞を如何に救ふか、是れ海外移住である吾輩はそれを救ふ爲めに産れたる救主であるぞ』

とは彼れが常に口にする言葉である敢へて言ふ彼れは決して社會主義ではない、彼れが世界一周もこれが海外視察を目的としたるに基因して居る、又彼れがそれを思ひ起した

る動機もある。

彼は明治五年三月十日廣島縣豊田郡に生れ幼にして父を失ひたる不幸兒である、爲めに彼れ非常に孝にして多涙多血の人、時恰も日清戦役の頃、彼れの親友にして父親はリウマチスで身動きも出来ず、母親は眼に視力なく家には食ふに一錢の貯へもなかつたと云ふ悲境にその子が突然に徴集されたのであつた。彼はこれを見るや熱い涙を流し轉た同情に堪えなかつたその時、彼れは奪然立つて、「嗚呼貧乏は苦しいものだ、よろしい己れは終生貧乏人を救ふぞ」

と決心したのがその初めであつた、茲に於て彼れは向ふ三

年間恐らく人間として出来る仕事は幾十種となく自から経験し遂に決心して無錢で世界を一周すると云ふ段取りになつたのである。

さればこそ彼れが自慢話は曰く印度探險談である。然かも彼れが五賃將軍と稱する處のもの即ち汽車賃、船賃、地賃、宿賃、食賃所謂五賃の五賃將軍たる處である。

然かも彼れは脛押しも無敵、擊劍、槍術、棒術、柔術は言ふに及ばず、森破凡と等しき奇術をも演ずるのである、時に米價騰貴の際に至つては益々猛り演説を試みてこれ又大雄辯であるには聴衆も舌を巻く事がある。

爰に彼れが尤も奇なる所以は狼と戦ひ、水牛に組打し

たる程の獍猛漢が八雲琴(二弦琴)を弾ずることの一事であ
る、實に奇手妙手抑揚その度に適ひ、激越の調の調べは胸
の血汐も湧かんばかり

蜂の嵐か松風か、たづぬる人の爪おとさか。駒をとめて
立ちきけばア、節おもしろき想夫憐……
と又相の手に移りその間殆んど人を酔はしむるのである。

▲宮崎虎之助

阿修羅の如き頭髮を貯へ底光りのある眼光を放つて『メ
シヤ』佛陀と稱し、常に揚言して我れは耶蘇の再臨なり、
メシヤなり、佛陀なりと自稱し勝手な理窟を振廻して居る

人こそ宮崎虎之助と云ふ奇人産物の一つである、彼れは今
春彼の青年會に於て青鞥社の御連中所謂新らしき女どもの
演說會の開催された當日、自然派の大家岩野泡鳴氏馬場孤
蝶氏兩名の演說中氣に食はぬ事あつて演壇に飛上り大に神
の説を解かんとするを突き落された好漢である。然かも今
は彼れが妻君の主催にて眞新婦人會なる、青鞥社に反對す
る會を設置したと云ふ、耳新らしき夫婦揃つての奇人であ
る。然かも彼れが如き狂言動に依つて稱へる説にも何時
の間にか化せられて、メシヤ佛陀の崇拜者も大部あるとの
事である。さりながら彼れ嘗ては大井憲太郎の乾兒として
政界の積鼻擲擔ぎしこともあり、當時は屢々酒に倒れて傍

人を撲ると云ふ亂暴漢であつた者が、遂に一種の刺戟より
煩悶、苦慮殆んど熱中したる結果偶然神の暗示に接したと
云ふ處から一種の精神病者否奇人的行動を爲すに至つたの
であるから一寸驚くのだ。

唯彼れにして佛陀と言ひ、メシヤと言ひ一言毎に神を呼
びつゝありながら可愛子供が出来て居つて御夫婦至つて仲
睦じとは此處が奇人として愛嬌のある所ではないか。

▲黒木良休

場所はしよは小石川西丸町に居宅を構へ毎朝五六十人の患者を
治療し午後は知名の人の家を巡回診察して一大繁榮を得

た彼の有名なる紅治療院の元祖こそ誰あらう海軍中將男
爵井上良知の實弟黒木良休その人である。

彼れが此家傳の神法紅療治は紅に加ふるに他の三種の藥
料を以てしたるものなるが、之れを身體に塗る時は不思議
にも四百四病も立處に全治すると云ふ奇々妙妙なる神藥天
下の醫學界の識者も悉く舌を巻いて居る位だから驚く、
然るに尙ほ吾人が聊かアツとする事は彼れ良休は却却強健
で既に十人からの兒を得て何れも人間並の身長があるに拘
らず父は却つて子供の膝の上に抱かれ得ると云ふ奇觀を呈
する身の丈け驚くべしタツタ僅かに二尺五寸體量約十貫と
云ふ稀有の小男だ、然かも此小男膽玉と來ては斗の如しで

山が崩れかゝつても貧乏搖ぎもしないと云ふ勇士だ。
而して彼れが尤も滑稽の一として今に噂に残つて居るの
は、こんな小男でも大西郷に使へて相應に働いたものだが
後明治十七年に至つて鹿兒島縣警部となつたことがある、
その當時彼れが衙門にあつてその名を呼ばるゝ時は常に机
の下から應と答へて伸び上ると云ふ有様だから一寸相手は
面喰ふ、然かも彼れは幼少より示現流の劍法に身心を鍛へ
來た男であつて彼れの着物は言ふまでもなく丈け二尺で一
反あれば二枚は優に出来るといふ調法な體で天下一流の醫
法の親玉と來ては珍も珍、これ程不思議なことは又とある
まい。

▲小手川豊次郎

天下の色男然かもハイカラーで身の丈は黒木良休に多き
事僅かに五寸である三尺と云ふ代ものだ、彼れはこれでも
米國文學博士と云ふ稱號を持つて居るのだから世の中は益
々不可思議なことが現れて來るのも已むを得ざる話、彼れ
は自稱經濟學の大家だが如何にも彼れは此頃百萬も金儲け
しやうと云ふので懸命にやつて居るが頗る傲慢で小穢ない
着物を來て居る、流石に人に金を貸付けて居る故でもあら
うか數萬の金は出來たやうだ。
彼れには随分珍談がある、一日數名の紳士と船遊をやつ

た事がある、やがて夕飯を終り彼は他に聞えよがしに頻りに経済學の演説を始めたものだから同行の後藤新平が之れを見付けて止めさせると彼は忽ち威丈高になり、何を君等に經濟のことが分つて耐るものか。黙つて引込んで居ると眞つ向に矢を放つたので、後藤もさる者烈火の如くに奮つて鐵拳を彼れの頭上に見舞はつたことがある、これには流石の三尺坊も閉口して早々に遁出したと云ふが、後藤は尙ほも呷と云ふ程背中を歐ぐつたので、彼は恨めしうに後藤をながめ、「もつと乃公の背の高い所を打ち直して呉れ」と遣つたので、到頭後藤も吹出して仕舞つて怒る譯にも行かなかつたと云ふ珍談がある、處が此男至つて女が

好きで手が付けられない、それも未だ許す點があるが女房でも妾でも時々書生と喰付き合つて雲隠れをされるなんてのだから之れには先生何時も大の色男の標致を下げて大弱りだとは御最もの話^〇

▲阿 呷 鉢 羅 婆

信教自由の今日随分怪げな教義を提げて飛出して來る宗教の中でも天理教禊教精神教の飯野吉三郎杯は有名なものだか自から如來と稱し活菩薩と唱へ一宗の開祖たるが如くに振ふ茲に阿呷鉢羅婆教の看板を堂々と掲げて目白臺に輪奐宏壯の建築をなし常に熾んに怪氣焰を吐いて居る西田

和協事阿伝鉢羅婆こそ世にも珍らしいお宗旨である、だが彼れが言に中てられて彼れの爲めに淨財を擲つものが少ないのだから盲千人の世の中とは言ひ状一寸開いた口が塞がらない、爲めに彼れは黄金の印綬を帯び羅綾の衣を纏ひ食ふに山海の珍味ありと云ふ太した格だ。

然かも彼れは小官吏時代に於て詐欺取財と云ふ罪科で巢鴨の臭い飯を食つた前科者だ、唯彼れは獄中にある間佛教の妙味に感じ初めて衆生濟度の本願を起して弘法大師が我が枕頭に現れて佛法護持の重任に當らしめたとかで眞實しやかに説き初めたのが抑々の起りだ、さればこそ此活如來先づ最初の血祭りとして嘗ては相場師としてその名人に知

られた米倉一平が娘に慇懃を通じ遂に持參金二萬圓の梵妻たらしめたと云ふ、此一事を見んも如何に阿伝鉢羅婆の何物たるかを略分明するのである、而して彼れ稍功の成り名を馳するに従つて本来の野性を出し一人の梵妻に厭きたらず屢々下婢を襲ひ落花狼籍を興がらせた事がある、或は田中やそてふ羅紗綿の古手に逢着して遂に持參金二萬圓の舊梵妻を放逐してその跡釜に据ゑた杯一寸現代の新しい思想の特徴も發揮したことがある。

こんな男に善男善女が有難がつて崇拜するとは眉毛を唾するの要がある、世は頻りに文明だの進歩だのと飛行器まで出來て騒いで居るが彼れが如き化ものが而かも帝都の眞

ん中に大魔殿を構へるやうぢやマダく安心が出来ない。

▲濱口熊嶽

これもこれも似寄つた御連中ばかりだが、爰に自稱仙人より巻物を賜りしよと大言して紅療治ならざる活療治、大部警察の御厄介になつた無免許醫者事濱口熊嶽その人こそも當代得がたき代物で、今は日本に居ることも出来ず遠く海外を経て米國に渡り本土に劣らざる大人氣を得て居るとは大詐欺醫事彼れ熊嶽である。

嘗て彼れは東京に於てのみならず恐らくは我が國至る所の市町村に於て「パツパ……」式活療治を施して僅か二三

時間間に二百五十人を限つて治療を爲し、然かもその時間一人一分間も掛からざる治療で大枚二十五錢づゝ取つて日に三個處位の治療所に置いて平均六七百圓は優にせしめたと云ふぞ偉い男だ、然かも彼れが治療の方法を見るにその最初に於て先づ一大廣告を爲すは勿論の事、その土地の學校とか或は軍隊、赤十字社杯に百圓位寄附をして大に人氣を取り然る後に土民を我が手の内に入れたと云ふ事である。その患者は曉明時より押し掛け來るも先づ彼れは白衣に依つて人目を驚かし、仙人と思はるゝ段取りにて「パツパ……」と二言或は四言ウニヤ／＼とやつて、それで治療だと云ふのだから益々呆きれて仕舞ふ。

彼れは斯くの如くにして得たる金は處もあらう名古屋に
一大別宅を構へ妻妾ども七八名に下らなかつたと云ふのだ
から世間は奇を好むが習ひとは言ひながら奇も奇寧ろ欺む
かるゝと知つてウマ／＼と捲き込まれるとは、これ濱口彼
れ熊嶽が奇人にあらずして或は世の俗人輩が奇ならしむる
やも知らず。

▲森 破 凡

過る年我が帝都は本郷座に於て市民を驚かし、仙臺に於
ては彼れ濱口熊嶽と競争して一大勝利を得、又彼れ中村春
吉ども共に妙術を語合つて長髪將軍を我が手のものに

入れたと云ふ破凡事彼れ森は恐らくは他六人に比して到底
眞似得ざる魔力を持つて居る、彼れは明光々たる刀を渡り
炎々燃ゆる火を手に握つて平然たる所は嘗て理學博士福來
友吉杯に心理状態を試験された男であるが、遂に博士連も
迷霧の中に葬つたと云ふ豪の者、彼は又濱口熊嶽、飯野吉
三郎、末廣幸三郎、宮崎虎之助等と同じく人事の吉凶禍福
を説くの徒にして眞狂人ならざる精神變狂者の一人、黙つ
て居れば何を仕出來すか譯が解らぬと云ふ恐る可き社會の
毒惡物である、さればこそこんな人間が處構はず天下恐る
者なしと云ふ譯で飛出して來るのだから警察の必要も又
宜なりと云ふ可しだ。

(一一) 相場界の八鬼

▲小池國三

小池國三は嬪天下と空風の名物たる甲州の産である。今日こそ富數百萬を作り、大黒顔に鋭鋒を藏してゐるが、一筋縄で食へる代物でない。三度の飯も食へない貧乏百姓の息子であつたが幼時から剛情で随分腕白者であつたのである。弱冠若尾逸平の門に馳て、致富の秘傳を誨へられたのである、けれども小池の今日あるは實に佐竹作太郎が啓導の賜である一體甲州の巨商若尾は後進を世話する

ことは至れるものであるから、若尾の後に佐竹あり、根津嘉一郎あり、兩宮敬次郎、小池國三、安藤安太郎の傑物が、簇々として財界に割據するのである。小池は奇智縦横にして甲州人の輕薄な根性を遺憾なく發揮するに妙を得てゐる彼は目的を達せんとせば手段などは一向御構ひなしである金のためには如何なる藝當をも演ずる興行的肌合である。今日の小池は多少金が出来たから、随分君子風な態度で、鹿爪らしい體裁で澄ましてゐるが昔の小池は野獸性を最も善く發揮したものである。公債の引受等でも餘程よい條件でないと取合はなかつたので、政府其他も、手古摺た事一再でなかつた。けれども小池は巧に先輩を籠絡したり、權

門に鼻息を窺ふことには、殆ど天才である、阿諛側口の徒輩充滿する株界の如きはないが、小池の足下にも寄り附けん連中はかりである。彼れ文字の才あるにあらず、單に糞度胸があつて輕薄だと謂ふに過ぎない人物である、だが株界に永年苦心もしたし、財産も出來て先輩の信用もあるから、仕事もやるに便利であるし、御金もどんどん殖えらばかりである。

▲神田 田 鍬 藏

神田鍬藏は株界の名物男であるのみならず、早や我財界の傑物となつてゐる。井上老侯や松方侯なども彼の術策に

は甘く翻弄されてゐる。彼れ静岡の商業學校を中途に廢し株界に身を投げだが白面の一書生、二十萬をまんまと損したのである。借金ばかりで首も廻はらず、静岡にゐたままらんで、東京に夜逃した。偶々同郷の先輩に泣き付いてやつと兜町に身を容れた。時恰も日清戦争前で株の昂低は痛快な位に面白かつた、根が馬鹿でない、小才も利くし、度胸も一寸据つてゐるから、一舉にして二十萬位を儲けたのである、彼が意氣揚々と静岡に歸り、十萬圓を見事に遣つたのも此間の事である、是に於て敗竄の鍬藏、遂に當り屋として、多少の虚名を博し得た、それから井上への御目通と相成り、盛に成金の元老名士の門を伺つたのである、

これがたにめ百萬圓位の金を短年月の間に造り上げた、濫
澤なども神田は案外役に立つ男だとして、元老間に幹旋の勞
を執つたのである。近來彼は昔の豪放磊落の氣を脱し、財
産を如何にして鞏固にするかに心を痛めてゐる、紅葉屋銀行
の設立の如きも這般彼が心中を察するに餘ある。花柳の耽
溺に六百六號の注射をうけて、大分元氣を沮喪してゐる、
新夫人は女大の卒業生で令名あるし彼も馬鹿に可愛がつて
ゐるから、閨門も無事なのは彼のために祝福す可しである。

▲福島浪藏

福島浪藏は體軀の堂々として音吐の朗朗たる一見政治家

の様な風采をしてゐる。謹嚴にして苟もせざるところは、
株界の人間としては珍らしい位の男である。近來餘り花々
しい決戦をやらん様である、福島商會も案外利益がない
この事である。横濱方面で外國關係に成功せんと企圖し
たが、支店の方も何だか風向が馬鹿に悪い様だ、けれども
富は小池、神田の徒と伯仲の間にあるし、娘共の行先を觀
て閑日月を送つても苦勞ない成金になつたのである。彼は
人間を使ふに妙を得てゐる適材を適所に配る事は彼の天才
である、金も鄙吝でないから使用人も心服してゐる様であ
る、福島商會に勤めた者は宮内官吏の如くに修身官の待
遇をうけてゐる。福島の大を就せる所以は部下が獻心的に

奉公する賜である。一見策士の風采あれど、謹嚴の中に愛嬌あり、時に諧謔を弄して、客の頤を解く談論家である、要は金儲の旨い外に、卓出せる男でもないが、悪辣分子を含まない所は、即ち彼の取り所であらう。

▲岩本榮次郎

大阪の株界に近頃男を上げたのは、岩本榮次郎の二百萬圓提供事件である。岩本は御坊ちやんである、けれども月並風に拘泥することが出来ないのである、自己財産の二分の一を割いて社會公共事業に提供したのである。今日の相場師などいふ手合は大言壯語を吐いてこそゐるが、金にな

ると一厘も出せぬ客ちん坊ばかりである、此我利利屋の餓鬼で充されてゐる中に、彼は殊勝にも二百萬圓を提供して、斯界の野郎共に一泡吹かせた快男兒である。こんな突飛な男だが、細心周密にして金儲には妙を得てゐる、先輩にも可愛がられてゐるし。財界の信用もあるし。彼は萬縁叢中の一偉才である、彼は豪語して二百萬は其序口に過ぎない、漸次に各方面に財産を投げる積りだと謂てゐる。人は金が出来ると實行せんものだが、大阪人中にも彼の如き痛快な男があると思へば、聊か吾人の意を強うするに足るのだ。

▲賀田金三郎

四十年の春から米屋町の買方に一大黒法師の出顯した、強氣一方でどんどんと買ふ、賣方の驍將も此煽りには望息せんばかりに屁子垂れた。御本尊は外でもない、桂の内命を受けて斯界に出でし賀田金三郎である。賀田は山口の産で、幼時から苦辛を嘗め、大倉組にゐること二十年纔に臺灣の一支店長になつた。けれども大倉久米馬や、門野重九郎の如き人間では、賀田を使ひ切れない。賀田も遂に喧嘩して大倉組を飛び出して仕舞つた、大倉禮を厚ふして再び聘したけれども、斷じて戻らなかつた。後藤と年來の昵近

であるから、身を臺灣事業界に投じ、荒井泰治等と共に後藤系腹心中の錚々となつたのである。彼の特色は剛情にして機を見るに敏なるにある、桂は時の政策として農民を潤澤するのが不景氣挽回の良策である、これがためには米價を暴騰さするにありと極め込んで電光石火此秘命を相場に心得ある賀田金に下した、若し此軍敗れんか其時は陸軍の御用米に買ひ上げんと黙契したのである。賀田が怪腕幾千萬かを儲けて貧民怨府の的となつたのは桂公の毒命を全うしたからである。彼は一昨年から賣方に轉じ、一時まんと儲けた金を吐いて仕舞つた、本年春頃から小百萬も得たらうが、到底一二年の大損を償ふに足らない而かも尙熾んに

米界に馳驅してゐる、昨今の賀田は振はない組の一人であるから、尾葉枯しの霜降模様であるが、自業自得因果應報と諦めさつしやい。

▲澤田米藏

澤田よの字は賀田の相棒だ、形影相添うて賣り方に顯はれてゐる、澤田は乞食の名物伊勢の出身である。大阪で此味を覚え、東京では三文合百師から、今日御大將株まで登つたのである。四十三年頃は彼も悪運強くも三四百萬圓を儲け、米界でよの字の勢力と謂つたら凄い程に、羽振りが善かつたものだ。澤田は金を遣ふに巧者であるから界限の

悪評は甚しく酷くない様である。故人龜田電光は相場が巧者であると一般から許されてゐたが悲しい哉昨年物故した。澤田も大膽であるし、掛引も案外甘い、また相場上手の域に到らない小物食の萩原長吉の徒が却て豎子の名を成してゐるのだ。一榮一枯は此社會の常であるが、澤田の取口は網にかゝつた雑魚を逃して仕舞ふのだ。百萬か二百萬圓儲けては、翌日になるとマイナス相場屋になるのだ、澤田も善い年になつたから葬禮金の支度にも取り懸るがよからうで。

▲萩原長吉

萩原長吉は小物食ながらに、百萬圓位の小金が出来た様だ、相場の巧者な事は米界に珍しい男である。此間では長さん長さんと謳はれてゐたが、今や大將株の一人と認められてゐる、見識や度量のある男ぢやない、唯十萬でも五萬でも利が附いたと観れば、巧みに逃げて仕舞ふのだ、彼は賣方の聯合とか、買方の同盟とかの仲間入はせん小物である。浮瓢箪の如くに利のある方面に泳ぐ名手である、單騎夜襲の斥候として今日の奇功を奏したのである。彼の邸宅も堂々として碧空を凌いでゐる、他の連中の一盛一衰あるに較ぶれば、彼が如きは巧に金を遺してゐる方だ、彼は徹頭徹尾大將の器でない狗鼠纒に狸猫を咬む手合である。

▲濱野茂

新宿將軍濱野も鐵管事件で大分油を絞られた、二十七年に二百萬圓位の成金も、一時は身の置く所もない破目に陥つた。松辰には其家、屋敷を取られ、七番抵當と謂ふ濱野一流の藝當を演じたのである。玉一枚横濱下んだりまで出掛ても相手にする者のない慘澹たる體であつた。けれども奇策縦横にして善惡兩天秤の男だから、逆境中に一大活路を開いた柳暗花明又一村といふどころに出た、それは例の買占圓に加入の一事である、此策略甘く圖に當り、遂にどうにか相場師らしい境涯まで盛り返へした。膽略も

あるし、奇策もある、辯論の一勇將なり、息一郎却々の變り物である、頃者福島の飯阪に老後を送つてゐるが、身に纏へる悪因縁、米界とは離れることの出来ん男である。大抵にして十萬か二十萬の金をオケン息に遺すことが、晩年の御妙案と存じ奉る。

(一一一) 實業界の新進十人物

▲早川 鐵冶

早川は實業界に於ける一騎當千の武者である。伏兵を張て單騎夜襲は彼が十八番の兵法だ札幌農學校を卒へ直に官

途に就いた、彼は此時既に豪膽にして吞牛の概ありき、口も八丁手も八丁一方の將たる大器を備へてゐたのである。目白の大公も早川は面白い奴だと謂ふ位の怪物だ。外務省に参事官ともなり、通商局長の重職に就て相當に霰ヶ關を賑はした、公使となつて折衝の任も相當に遣り遂げた、山座圓次郎外交界の變物として相當に持嘶さるゝも、當時早川の流行に比せば、到底物の數にもならない人氣であつた。早川を抜擢したのは隻脚伯だ。伯の失墜と共に彼は野に下り、實業の野に吠えたのであるが、官歴の有り難さで相應の獲物があつたらしい、人が危険視してゐる外資輸入を企てたので案外甘い汁を嘗たのである。事業熱の勃興と共に、

大小會社の發起人として、頑健の名は賣れたのである。中にも小樽木材會社の如きは、彼が全身の勇を揮ひ、一時は成金の仲間入をしたのである。澁谷の邸宅堂々として大名華族の如しだ、例の頑鐵の事だから、其後一足飛に冒險事業に蹉跌し、今ではマイナス攻めの孤城落日の觀がある、僅かに鑛山、東京倉庫に氣息奄々として飛躍の機を待てる。けれども對島で名物福本日南を斃し、一時政友會で持てゝゐたが、反逆好きの早川の事だから、先輩とか元老に説服された譯でもあるまいが、遂に脱會したから、彼が得意の單騎夜襲を試むることあでらう。財産の多寡は別問題として、平調無味の實業界に彼の如き、雄辯高論四莖を

駭かす男があるのは、興味あることである、願くは彼たる者、宜しく奮勵一番して其駄法螺を實現せしめよ。

▲牧野元次郎

牧野元次郎は近頃の流行兒である、不動貯蓄二年据置で、彼の懐も大分暖かになつたのだ。今では彼は熾んにニコニコ主義を標榜し、福徳圓滿の長者である如く、世間體を偽つてゐるが、成田不動山の神體を祭り上げ、大分策士の心膽を寒からしめた、海千山千の豪の物だ、牧野一派に遺られては、不動も靈尊の散々に油を絞られたのである。成田で味噌を付けた牧野は、小才がきくから何か甘い仕事と

探し廻つたが、遂に不動貯蓄銀行を見つけた。千葉の産物で守本尊が不動尊だから、亦不動の銘打つたのである。今度は神明の加護が大分よく當つた、二年経たぬに一廉の信用ある銀行と化けた、彼は福徳無量、春風駘蕩を主義とし奮闘努力を看板に、巧みに外交員を使つたのである。一面に勸業會社と氣脈を通じ、資金を融通するに妙を得今日では不動も稍山師の域を脱し、日本銀行などにも相當の供託金ある様になつた。彼が日々不動尊を信仰するものも、豈夫れ理なからんやである、殊にニコニコ主義の機關として、雜誌ニコニコを發刊し、處世成功の第一義は、ニコニコにありと唱ふ、彼一流の手段で相當に信者もあるらしい。牧

野の成功も却々大したものであるが、是は萬事抜目のなき小才の賜物で、目から出て鼻にぬける彼も、亦僥倖兒中の最である、終りに彼は高等商業の出身であると謂つたら、さぞ駭く人もあらう。けれども小才に長けたる人物の輩出は高商の獨占物だ。

▲阪田實

設立以來未だ四五五年の新進銀行として、資本金一千萬圓の豊國銀行がある。一時金融の切迫と外部の掣肘とで、重態に陥れるも、拮据苦心して今日の盛運に到らしめたのだ、豊國は殆ど専務阪田實の半身で、阪田が財界一方の將たる

も、其背後に豊國を控へてゐるからだ。彼は岡山の産で市長阪谷芳郎と從兄弟の間柄で、役人として氣品ある資質は皆彼が幼時の薰陶者の賜物で、濁流滔々の間立ちて毅然として、丈夫の本領を發揮し得るのである。彼が父は常に誨へて算盤を持つも、尊ぶ可き士魂を失ふなど謂つたデ彼は一舉一動尙乃父の訓に維れ背かざらんことを心掛けてゐる。少時神童の名あり、慶應義塾を出で、地方育英の業に當り、良教師の名を謳はれ、轉じて郡長の任に就き、壯齡二十九にして既に能吏の譽を擧げたり、次で山本達雄の知る所となり日本銀行に入りぬ、悠揚迫まらぬ彼は、此間に大將たるの下地を研究し、事に處して苟もせず、責任を

重ずる紳士として將來財界に矚目せられたのである。豊國の破綻に類せんとするや元老彼を拉し來つて此難關に當らせたのである。彼は從來營業方針の非なるを切論し、監査機關を獨立して、至正至公に調査の任を盡す組織に改めた。門野の老巧も弱輩阪田の非凡を嘆賞して止まず。これがたに本支の連絡其宜しきを得て豊國の今日あるを致したものである。彼れ大才大器にあらずと雖、部下善く其徳に服し外者信を置く所以は阪田が徹頭徹尾人格的修養の賜物なり彼れ頃者片腕の永見勇吉を失へるは、痛嘆事にして眞に豊國の不幸である。

▲中山佐市

雑誌界の名物男野依秀一も、農工の中山には一杯喰はさ
れたる傾きがある。中山は大きく出れば反撥力も強い、弱
く押せば女々しい弱音が出る。本性の解せぬ當今實業界に
其比がない、旗幟不鮮明、不得要領、夫で腹の据り工合が
並でない、恰も故星亨の小さい肌合である。けれども或點
には星も及ばぬ長所を備へてゐる。學歷の誇る可きなく、
後援の大あるにあらず、農工の中堅に籠り怪腕を縦横に揮
うてゐるのだ。中央大學時代は、貧弱なる苦學生であつた
が例の田尻北雷が邸に押し掛けては、先生の處世論、財政

論に傾聴百拜したのだ。斯くて同郷の先輩たる成川の玄關
番たる彼が遂に大藏省の役人となつた、けれども怪腕深辣
の彼は、到底刀筆の末技に浮身を窶さんなどは、思ひも寄
らぬ事である。遂に大阪へ下り天下の風雲を眺めてゐたが、
松本重太郎の羽振関西に普かつた頃とて、巧みに松本の禪
を曳いたのである。居ること數歳落魄の體で東に歸り、東
京農工銀行に入つた、當時農工營業方針定らず、重役連頭
痛鉢巻の際に、彼は都市農工の發展策を建白した、根が馬
鹿でない彼の事だから、忽ち重用せられたのが今日彼ある
の前提となつたのだ。地方の農工は半死半生の危機にある
のに、東農ばかりは超然として、好況に向てゐるのだ、今

や頭取として百事意の如くに動き得意の絶頂に達してゐる、才子由來才に溺る、彼たる者自重の秋だらうと思ふ。兎も角銀行界月並ならぬ傑物だと讃めて置かう。

▲郷 誠 之 助

東株理事長郷男爵は、財界の未知数である。中野武營後賢を進むるの美名で退くや、東株理事長の候補は雨後の箱の如くに顯はれた、が御輿は遂に郷誠之助に廻つたのである。例の角田眞平などは、郷派賛成の有力者であつた。彼は名門の出であり、壯時永く獨逸にあり、政治經濟の形式も履んでゐるのだ、此時既に實業界雄飛の念もあつたから、

早速快諾せるものゝ。情實纏綿して老獺中野の失敗せる、東京株式取引所果して遣り通せるか否かは疑問であつた。けれども小池、神田、福島、布施等の後援を楯に、此榮職有り難しとお請したのである、彼には惡辣不正の血液は藥にしたくも含んでゐない、純潔無垢の紳士である。泥棒の集合たる兜町の親方に郷の如きあるは、げに面白いコントラストであると思ふ。彼が威風堂々として容易に口を開かず、看板だけは仲々立派なものだ、其人に接するや懇切丁寧にして、自らを低うすること華胄界稀に見る男である。要するに彼は實業界の未成品で、今茲に其眞價を評論するも、早計に失するの譏を免れまい、で唯向後彼が行動に徹

するより外はない。

▲池田成彬

八面玲瓏を装ひ、瞞着一天張の人物揃の三井銀行に、池田成彬の如き謹厚眞摯の人がゐるのは、聊か駭かざるを得ないのだ。池田は鈍物か將た遣り手かは、其使用人でも判断に苦むと謂ふことた彼には非凡の長所がない、信用の出来ると謂ふだけだ、中上川を舅とせる閨閥はあるが、夫以外に力量の卓越せる事を聞かない、羽州米澤の藩士で、夙に慶應の理財科を修めたのである、中上川は池田の未來にいたく矚目したとこのことで、三井の足利支店長として綿

密なる經營振りは、織物界の恐慌に際しても、一向打撃を蒙らなかつたとの事だ、三井の元老は消極的に固守する人が、幅をきかしてゐるのであるから、池田の今日も此邊の呼吸が出世の縁となつたのだ、其後銀行事務研究として歐米にある三年、歸來營業次長として、大過なく勤めた。彼が經營振りは華手ならざるも、不成績な藝當は斷じて遣らない、早川千吉郎と並んで三井の牛耳を握れるのも、安全辦の運轉手として、詭向の男であるからだ、一介の青書生たる彼は今や三井の常務理事として、大小の樞機に參畫してゐるが、近頃は財界の新進として池田の名前も大分賣れて來た。彼が美點は後進を指導誘掖し、金錢に淡泊な事だ

ある、乃父成章昨年物故せるも、地方の元老にして府會議
長もした事がある、氣品の揚れる成彬其儘の人物である。
中上川あつて池田あり、三井あつて池田ある財界僥倖兒の
一人だ。

▲田邊熊一

越後系の新進に代議士田邊熊一がある、乞食の名所蒲原
郡の出身だ、中央大學に學び辯論風發の學生として知られ
た、田舎の町長などをして相當に手腕を認められ、縣會議
員としても田吾作連中の牛耳を執つたのである。けれども
野心満々の彼は、到底片田舎にゐることが出来なかつたの

で、紡績界の巨人日比谷を頼り、日清紡績に入れるが、田
邊の今日ある所以だ。一體日比谷は調法な人なら、毛嫌せ
んで誰でもゴ座れの主義だから、田邊も其祕書となつたの
である。忠實に働いて大小の事皆田邊の耳に響いた、彼は
越後人の特性として、巧に鋒銛を藏し、律義一遍に見せか
けた、日比谷の寵愛も雷ならず、遂に日清紡績の關鍵を田
邊に握らせた、鬼に金棒、忌憚なく田邊式を發揮した、固
より努力奮闘は彼が持前で、飯を忘れて紡績の發展に熱注
し、日比谷御大の覺愈々芽出たのである、實業界で成功
せる彼は、今や郷里より代議士となり、政友會陣笠の一人
として工場法案などでは、相當に彌次の本性を顯はし、

熊一の名漸く政界の一角に知らる。人となり鄙吝にして金銭的の事は萬事お話にならない、越後人の特色を最も鮮明に表白する一人だ。けれども頭目たるの貫目と糞度胸も兼てる男だ。

▲栗津清亮

近頃大分賣り出した傷害保険の栗津は學問もあるし、肝腎の根氣も有る様に見えるから、必ず成功するだらうとは、最近安田が彼を評した言葉である。法學博士栗津は實に我國唯一の保險學者である、松波、志田の諸博士も、此保險道にかけては、到底お坊ちゃんの譏は免れまい、栗津の保

險を講ずるや、満面愛嬌、諧謔百出、法理と實際を諄々として説く、學生界の人氣男である。傷害保険を設立し、自から社長として百般の經營に鞅掌してゐる、で傷害保険の眞價値も世間から、認められて來たから、必ず繁昌せんと成金爺の評語も、當るだらうと思ふ、彼は畑が學者であるから、專念金のみに走らない、で長者となるには其前途も茫洋たるものだ、人と接するに城府を設けず、後進の學生なども彼の門を叩くものが多い、彼は出來るだけの便宜を與へてゐるから、栗津の評判はよろしい様である。趣味も多方面で、圍碁、玉突、殊に長唄の名人で、花柳界に名を賣つてる豪の者だ。

▲福島甲子三

東京瓦斯の鎮臺は、寡言沈黙の福島甲子三である。彼は越後長岡三文商人の息子である、苦楚辛酸浮世のどん底を渡り、長岡病院の小使などをした男だ。時の縣令富田鐵之助其非凡の根氣を愛して、東京に呼んだのである。彼今でも富田を徳として、月參の勞を惜まない、東京府水道局にあり、將來水道の改良事業を絶叫して、水原調査の大任を全ふしたのである。で水道の完備も一は彼が苦心の賜物だ。澁澤榮一彼の才氣煥發なるに目星を附け、東京瓦斯の支配人に併用したのである。競争又競争で東京瓦斯も

常に苦戦の間にあるが、彼の經營巧に功を奏し、殆ど獨占の状況にあるのだ。千代田瓦斯買収の黒幕は、彼が根本の元動力であると謂れてゐる。彼は又人物採用とか、使用人優待とかに就ては居常頭腦を痛めてゐるから、彼の輩下に一人の不平家もないのだ。

(一三) 銀行界の八巨

▲村井吉兵衛

煙草王として海内第一の成功者たる村井吉兵衛は、今や村井銀行頭取として財界の重鎮と目せらるるに到る。彼京都

に生れ、十四歳にして煙草屋の小僧となり、前垂姿の時代より既に老成人の如く、逸早く洋巻煙草に着目し、サンライスを發賣するや、忽ち世間の歡迎を得、一朝にして幾萬の富を作りぬ。

斯くて日清戦役に際し、兩切ヒーローの名又都鄙に喧傳し一躍して富豪の仲間入り。次で煙草官營となるや直に銀行屋に變ず。其資本僅かに百萬圓なるも、基礎健實にして、覇を關西に唱ふ。是亦た彼が老巧の巨腕を利用せる結果にして女婿貞之助は輪廓稍小なるも、尙徳の別才ありと謂はる。支配人綾井忠彦温厚謹直の好紳士にして、銀行の如きは蓋し詭向ならん、此兩者が吉兵衛の羽翼たる以上

銀行の信用は益々擧る一方也。彼は實に膽略と才氣に富み、人心收攬の妙を盡せり。人の言を容るゝに吝にして、多少偏狹の譏をうくるも、彼が數業兼營の弊を信じ、一事に熱注するが如きは、最其長所なり。頃者秋波を石油に送り、暗中飛躍の擧あり。今や實業家中にありては、其名甚だ古くして猶齡僅かに五十、前途洋々春の如し。上方的の狡猾なる血精に富むも、稍義俠心ありと謂はる、亦一代の才人なり。

大正七年五月十五日印刷
大正七年五月二十日發行

著作
權
所有

【慢自國抄】

□定價金三十錢□
□郵税金四錢□

著者 狂花仙人

東京市日本橋區若松町四番地

發行者 湯淺久米策

東京市神田區松住町五番地

印刷者 菅井十一郎

東京市日本橋區若松町四番地

發行所 春江堂書店

(電話浪花四八二六番)

(振替東京一八〇六番)



278
1270

終

春江堂